



理振協会会報

編集：(公社)日本理科教育振興協会 広報委員会
制作：株式会社 太洋堂



公益社団法人 日本理科教育振興協会
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28
TEL: 03-3294-0715 FAX: 03-3294-0716
URL: <https://www.japse.or.jp>

CONTENTS

■ 第55回定時総会のご報告

- 会長挨拶 (p1) ■ 松本文部科学大臣祝辞 (p2)
- 第55回定時総会 議事録(p3) ■ 令和8年度 事業計画(p4)
- 講演「2040年の社会・地域・デモクラシーと学び」(p6)
- 情報交換会のひとこま (p6) ■ 来賓のご挨拶 (p7)
- 永年勤続優秀社員表彰 (p7)

■ 祝 全国理科学研究大会

- (一社)日本理科教育学会会長挨拶 (p8)
- 日本理化学会会長挨拶 (p8)
- 全国中学校理科教育研究会会長挨拶 (p9)
- 全国小学校理科研究協議会会長挨拶 (p9)

■ 令和8年度理科教育設備整備費等補助金進捗状況 (p10)

- 岡山教育委員会との共同 理科教育設備整備費等補助金事業・台帳作成説明会報告 (p10)
- 令和8年度 復興教育支援事業計画 (p11)
- 令和8年度 理科教育設備整備費等補助事業・台帳作成説明会 実施報告 (p11)
- 安心安全ドキュメント (p11)
- 理科観察実験指導力向上セミナー実施 (p11)



第55回 定時総会を迎えて

本日は、大変お忙しい中、文部科学省ならびに多くの御来賓と関係者の方にお集まりいただき、また、多数の会員の方のご参加をいただいたことに、大変感謝申し上げます。

当協会は第55回の定時総会を迎えましたが、1963年（昭和38年）に私どもの協会は誕生しており、そこから63年が経過します。当時は最初の東京オリンピック直前のことで日本が高度成長期を走りぬけていた時期でした。その後も成長を続けた日本はGDP世界二位となり、競争力は世界一といわれましたが、日本のバブルがはじけた1991年からは25年間ほぼ成長がない。その間に世界は倍に成長しましたから、日本の失われた25年と呼ばれるようになりました。

その中で2010年の事をはっきり覚えております。日本国全体のGDPがお隣の中国に抜かれたのです。現在では5倍近くになっていますからあっという間に差が開いたのです。ただそのこと以上にショックだったのは、ちょうど同じ年、一人当たりのGDPでもシンガポールに抜かれたことです。アジアで断トツと言われた日本が、総額と一人当たりの両方で首位から陥落しました。現在のシンガポールとの差は恐らく3倍ぐらいになっているのではないかと思います。またG7各国の中でも、一人当たりGDPは最後尾で大変残念なことです。

直近で気になることとして、数年前から生成AI技術が飛躍的進歩を示していますが、その基になるテクノロジーは完全にアメリカが席巻し、中国は次の座に構えながら虎視眈々としている両者が牛耳る構図です。ただし、AIの進歩を支える半導体は米国、台湾、韓国が設計・製造でリードしていますが、日本は製造設備と材料の一部で高いシェアを維持しています。それらが維持できているのは、まさしく日本の科学力の過去からの努力の成



公益社団法人
日本理科教育振興協会
会長 大久保 昇

果ではないでしょうか。それはアジアでもG7のなかでも、日本のノーベル賞受賞者の数をみればよくわかります。今年度の受賞者二人は本当に嬉しいニュースでした。

今回の受賞者である北川、坂口両先生に共通する、自分たちの創造力と想像力で新たなものを創り出すのが科学です。その科学の素養を高めるのが理科という学校の科目です。我々は理科大好きな児童生徒を伸ばし、理数系の進路を選択する生徒を増やすためのあらゆる活動に尽力してまいります。その成果は自然科学だけでなく、人文科学の分野においても、必ずや日本が世界に貢献できる道を切り開けることでしょう。日本と日本に住む人々がAIに使われる側に回るのか、使う側になるのか。何としても使う側にまわる児童生徒を育みたいものです。

総会にお集まりの方々は、皆様、理科教育に様々な形で関わっていただいている方々ばかりです。本日はそのような皆様の知恵と力が結集する場にできればと存じます。長く時間を頂戴することになりますが、どうか最後までよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人日本理科教育振興協会 第55 回定時総会文部科学大臣祝辞



代読
文部科学戦略官
三木 忠一

本日、公益社団法人日本理科教育振興協会第55回定時総会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

はじめに、御参集の皆様におかれては、日頃から子供たちや教師が観察、実験で活用する優れた理科教材を開発し、理科教育の充実・発展に多大な御尽力をいただいていることに、心から感謝申し上げます。

さて、私が分科会長を務める日本成長戦略会議人材育成分科会において、本年4月、「高校から大学・大学院等を通した人材育成システム改革ビジョン」を取りまとめました。

ビジョンでは、国力の基盤は人材力であり、不確定で変化の大きい時代に対応できる人材を育てることが重要という考えのもと、必要な取組をまとめました。

この中では、産業構造の変化に伴い、理工・デジタル系人材の不足が見込まれる中、こうした人材の育成強化を図ることとしております。

そのためには、理科教育を一層充実させ、子供たちが観察、実験を通して自然の事物・現象に直接触れながら、科学的に探究する力を育成することが重要です。

文部科学省としては、理科教育を発展・充実させていくため、必要な設備整備を支援するとともに、デジタル等成長分野を支える人材育成など、子供たちの資質・能力を育むための施策を進めてまいります。

また、これからの時代にふさわしい学習指導要領の在り方について、中央教育審議会で議論が進められております。

理科に関しては、児童生徒の興味・関心を高めるためにも、観察・実験等や科学的な探究活動の一層の充実が重要であるとの議論がされております。

観察・実験等の一層の充実のためには、器具・機器の整備・更新を計画的に進めていただくことが不可欠だと考えております。引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、日本理科教育振興協会のますますの御発展と、皆様の一層の御活躍を祈念しまして、私からの挨拶といたします。

令和8年5月26日

文部科学大臣 松本 洋平

令和8年度 第55回定時総会 議事録

1. 日 時：令和8年5月26日（火） 13時30分～15時20分
2. 場 所：東京ガーデンバレス 3階平安（東京都文京区湯島）
3. 出席者：正会員総数 1,006社
出席者数 732社（うち委任状 706社）
4. 理事及び監事の出席状況
〔出席理事 13名〕
大久保 昇、中村 友香、西松 正文、小林 啓介、藤原 憲二、岩瀬 英人、白石 豊、石代 俊則、上村 礼子、飯田 秀男、鈴木 盛一郎、大貫 重良、石崎 裕行
〔出席監事 2名〕森川 将成、中田 弘明
〔次期理事就任予定者5名〕林 禎久、和田 栄治、和田 一郎、榎木 賢一、阿達 泰之
〔次期監事就任予定者1名〕林 四郎
5. 議事の経過及び結果
13時30分、副会長 藤原 憲二 氏 から開会宣言があった後、司会の副会長 中村 友香 氏から定款第17条の規定のとおり会員総数の過半数の出席により本総会が有効に成立している旨の報告があり、続いて定款第15条第1項の規定により、会長 大久保 昇 氏が議長となり、次の報告事項の後、2議案について逐次審議した。

❖報告事項

令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画及び事業予算について大久保議長が自ら報告を行った。

❖第一号議案 令和7年度 収支決算報告の件

議長の指名により常務理事 石崎 裕行氏が、配布資料に基づき、令和7年度収支 決算報告（①貸借対照表、②正味財産増減計算書、③内訳表、④財務諸表に対する注記、⑤財産目録、⑥附属明細書）について説明し、議長から以上についての意見・ 質疑を求めたところ全員異議なく拍手をもって、これを可決、承認した。

次いで、監事 森川 将成氏から定款 第38条の規定により監査の結果、正確妥当であった旨の報告があり全員異議なく拍手をもって、これを可決、承認した。

❖第二号議案 役員改選の件

議長より、配布資料に基づき、役員候補の理事5名及び監事候補1名の氏名を一人ずつ発表し、候補者一人ずつ、全員異議なく可決、承認された。また、役員候補の理事・監事全員が自ら役員就任を承諾した。

15時07分をもって役員改選が締結された。

続いて、議長から以上で総会の全議事が終了したことが宣言され、議事録記名者として次の2氏を指名、承認を求めたところ全員異議なくこれを可決、承認した。

中村 友香 氏（株式会社ナリカ 代表取締役社長）

鈴木 盛一郎 氏（株式会社鈴盛商会 代表取締役社長）

以上をもって15時15分に全議事を終了し、副会長 西松 正文 氏が閉会を宣言し、全日程を終了した。

令和8年度

事業計画

全ての児童生徒が自らの体験を通じて主体的学びが得られるように観察実験が行える環境の整備を支援する。

1 全ての児童生徒が観察・実験を着実に実行できる理科教育環境の整備充実を目指す

1-1 観察・実験に必要な機器整備を推進する

国・自治体・学校法人に対し、指導要領で求められる理科教育の充実に向け、計画的に複数年で充足を進める予算化を働きかけるとともに、補助金制度の理周と活用促進を図る。

- 適切な媒体で設置者・学校へ正確かつ迅速な情報提供を行い、理科教育設備整備事業の普及を図る。
- 複数年計画での充足に向け、都道府県・市区町村での次年度以降の計上への働きかけを強化する。
- 整備が進まない市区町村に対し、都道府県との共同開催説明会を出来る限り多く実施する。



理科教育設備整備費補助金事業・台帳作成説明会

- 補助申請・管理台帳作成等の実務セミナーや個別相談会を継続し、適切な国庫補助申請を支援する。

1-2 最重点品目・重点品目の整備充実を図るとともに老朽機器の適正管理を推進する

- 全国すべての小中学校において、最重点品目の完全整備を図る。
- 新規追加品目の整備状況を把握し、計画的な充足に向けた活動を行う。
- 老朽化等で使用できない機器について、廃棄基準の周知徹底を図り、適正な更新を促す。

1-3 観察・実験に関連するその他の必要な予算措置の働きかけを推進する。

- 理科実験支援員の配置拡充に向けた働きかけを継続する。
- 観察・実験では関連消耗品も必須であることを知らしめる活動を継続する。

1-4 学校現場の実態把握のための調査・分析を継続し、協会の活動にいかす

- 学校現場の実態と課題を調査・分析し、得られた知見を広く発信して理科教育の充実につなげる。
- 学習指導要領の改訂検討開始に合わせ、理科設備基準の品目・数量の見直しおよび次期理科基準リストの提案に着手する。

現在、文部科学省では
令和8年度理科教育設備整備費等
補助金事業を募集しています
国庫補助金を活用して整備しましょう

小・中・高学校では、理科観察実験設備重点設備・重点設備が不足しています。国庫補助金を活用して整備しましょう。

令和8年度の事業実施計画（概算）も掲載されています。令和8年度の事業実施計画（概算）も掲載されています。令和8年度の事業実施計画（概算）も掲載されています。

国庫補助金を活用して、理科観察・実験機器を充実させ、理科教育環境を整備してください

1. 理科観察・実験機器の充実を行うために、国庫補助金の活用を促進します。国庫補助金の活用を促進します。
2. 使えない古い観察・実験機器を廃棄して、理科教育環境を整備しましょう。

国庫補助金の活用を促進します。国庫補助金の活用を促進します。国庫補助金の活用を促進します。

令和8年度理科教育設備整備費補助金事業参画促進パンフ

2 「理科の授業は理科室で」の実現に向けた環境整備の推進に努める

2-1 理科室・理科準備室の整備を促進する

- 学校の規模に応じた理科室の確保ならびに実験台・収納・安全設備などの理科室の質的向上を図るため、文教施設全般の仕組みを踏まえた整備促進活動を行う。

2-2 情報端末の普及に対応した新たな理科学習環境を創出する

- 情報端末と観察・実験機器を連携させた先進的な実践事例を収集し、児童生徒の理解を深めることにつながるモデルとして紹介する。

3 安全な理科観察実験授業を支援するとともに教育用理科機器の品質向上を図る

- 小学校教員を中心に、観察・実験指導力向上セミナーを開催し、実践的支援を行う。
- 実験中の不測の事態に関する調査を基に、安全・安心な実験実施のための刊行物を作成・配布する。
- 観察実験機器の品質向上のための諸活動を行う。
- 諸外国の理科教育環境を調査し、品質向上と安全性確保に資する知見を収集する。

4 理系進路選択者の増加に向けた取り組みを行う

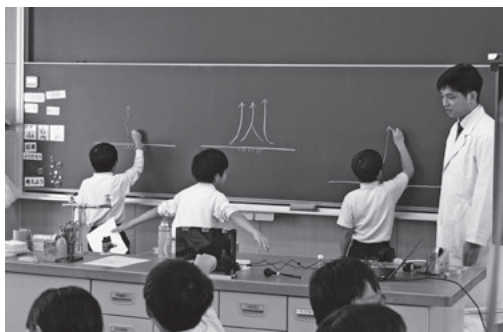
- 理系・文系選択の要因を継続調査し、現状把握を深める。
- 女子生徒の理系選択拡大に向け、理科好きな女子中高生を育成する支援活動を検討する。
- 生徒がもっと理科好きになり、興味関心の向上につなぐ理科授業の工夫について、調査を始める。
- STEAM教育の推進において、理科が中心となる活動事例を紹介する。

5 社会全体での理科教育推進に向けた理解促進を図る

- 有識者・国会議員等に理科教育の意義を訴え、将来を見据えた世論喚起を図る。

6 理科教育の普及啓発に関する事業を実施する

- 災害被災地域での出前授業を通じ、自然災害と防災に対する関心を高め、社会で生かせる理科学習をめざして活動する。
- 各種理科教育啓発事業への協力・参加を進める。



被災地での理科実験授業

7 関係機関・諸団体との協力推進する

- 理科教育推進団体への支援事業を実施する。
- 関係機関・諸団体との相互協力を強化する。

8 会員・関係者へのサービス拡充する

- ホームページ等を活用した広報活動を充実させ、会員サービスを拡大する。
- 毒物・劇物取扱責任者資格試験の受験支援を継続・拡大する。

9 公益社団法人としての基盤強化に努める

- 会員数・口数の拡充に努め、財務基盤の安定化を図る。
- 公益事業の拡大と、それを支える健全な会計・財務運営を推進する。

講演

◆ 演 題

「2040年の社会・地域・デモクラシーと学び」

◆ 講 師

文部科学省 高等教育局長 合田哲雄 氏

◆ 講 演

2040年の近未来に対して、労働市場がどのように変化しているかを現状の産業構造を踏まえ、鋭く指摘されました。

文系職種が大幅に余り、理系人材が大幅に不足するという予測をご説明され、現在の仕事がAIに取られていく可能性があることのお話もいただき、将来、危機を感じられた聴講者もたくさんおられたと思います。

事例のご紹介もいただき、実態を伴った、説得力と迫力のある解説に、会場全体が引き込まれていきました。

聴講者は、ほぼ理科教育に係る方々ばかりでしたが、理系人材を増やしていかなければならないことのご説明にとても勇気づけられて、私たちを応援していただけている気がしました。

今回、合田局長にご講演をいただき、私たちは益々、理科教育の普及充実に尽力して、多くの理系人材を増やしていかなければならないと、身が引き締まりました。

明日からも、自信をもって理科教育普及・充実に臨めるご講演をいただきました。



情報交換会のひとこま



来賓のご挨拶



文部科学副大臣 **中村 裕之**

文部科学省を代表して文部科学副大臣 中村 裕之様がお越しいただき祝辞をいただきました。

またご多忙にも関わらず、多数の国会議員の皆様もお見えになりご祝辞をいただきました。



衆議院議員
笠 浩史



衆議院議員
田野瀬 太道



衆議院議員
美延 映夫



衆議院議員
古屋 圭司



参議院議員
山谷 えりこ



参議院議員
大島 九州男



参議院議員
石井 苗子



参議院議員
牧山 ひろえ



衆議院議員
遠藤 寛明

第55回定時総会 永年勤続優秀社員表彰

令和8年度第55回永年勤続優秀社員表彰者は、右表のとおり6社11名となりました。
株式会社ニコンソリューションズ 井野 正子 様が壇上に上がり、大久保会長より賞状が授与されました。



No.	氏 名	所 属 企 業
1	山 田 剛	ケニス株式会社
2	中林 華子	ケニス株式会社
3	井出 吉紀	株式会社東京事務器
4	中島 航己	株式会社ナリカ
5	平 木 敏	株式会社ニコンソリューションズ
6	井野 正子	株式会社ニコンソリューションズ
7	大場 敬生	株式会社ニコンソリューションズ
8	山根 宗昭	株式会社京都科学
9	高見 風紀	株式会社京都科学
10	植原 夏子	株式会社京都科学
11	山田 定寛	株式会社島津理化



全国理科学研究大会

一般社団法人日本理科教育学会 第76回全国大会（鹿児島大会によせて）



一般社団法人日本理科教育学会・第76回全国大会
鹿児島大学郡元キャンパス
令和8年8月22日（土）～23日（日）

一般社団法人 日本理科教育学会
会長 **和田 一郎**

本年度は、南九州・鹿児島の地で全国大会を開催いたします。実行委員長・鹿児島大学の土田理先生のもと、8月22日（土）から8月23日（日）の2日間にわたり、理科教育に関する理論的・実践的な研究発表がなされる予定です。記念講演では、鹿児島大学水産学部の大富潤教授から「深海性魚介類の生物学と未利用資源の有効利用」をテーマにご講演いただきます。また、今大会では児童・生徒によるポスター発表セッションも企画されており、次世代の理科への関心を育む場としても期待しております。大会前日には活火山・桜島や霧島を巡るエクスカーションも予定されており、鹿児島の豊かな自然を感じながら理科教育を語り合える機会となれば幸いです。各種委員会企画・ワークショップ、課題研究・一般発表も例年通り実施予定です。詳細は大会ホームページ〔<https://nationalsjst.jp/2026>〕をご参照ください。

最後になりましたが、本学会の歩みを力強く支えてくださる公益社団法人日本理科教育振興協会の皆様に、会員一同を代表して心より感謝申し上げます。

令和8年度全国理科教育大会 第97回日本理化学協会総会 新潟大会によせて



令和8年度全国理科教育大会・
第97回日本理化学協会総会（新潟大会）
令和8年8月4日（火）～6日（木）

日本理化学協会
会長 **上村 礼子**

本年度の全国大会は、運営委員長である新潟県立新潟北高等学校・新潟県立碧高等学校 田邊康彦校長のもと、8月4日（火）から8月6日（木）までの3日間、三条市立大学を会場として開催されます。本大会では、『「探究心を育む理科教育」―地域産業との連携で探る、新たな価値の創造に向けて―』を大会主題に掲げ、主体的・対話的で深い学びを実現する魅力ある理科教育の在り方や、よりよい指導方法について協議し、研鑽を深める予定です。

文部科学省講話では、文部科学省初等中等教育局教科調査官 小林一人氏よりご指導を賜ります。記念講演では、三条市立大学 学長 アハメド・シャハリアル氏から、「探究心が拓く未来 ― 理科教育×次世代を牽引する地域産業の融合による価値創造 ―」をテーマにご講演いただきます。また、「探究心を育む理科教育」をテーマとした7つの研究協議分科会をはじめ、多様な分野にわたる実験事例報告や研究発表、4つのコース別研修等が企画されています。8月5日（水）には教育懇話会も開催され、全国の教育関係者の皆様が親睦を深める貴重な機会となることが期待されます。さらに、「探究」等に関する全国の理科の先生方の声を踏まえ、研究協議会では調査部・教育課程検討委員会から調査結果の報告も予定されています。高等学校における現行の学習指導要領の実施に関する情報や知見の共有も含め、本大会が理科教育のさらなる充実・発展につながることを期待しております。詳細につきましては、本大会のWebサイト〔<https://nirika-taikai.com/niigata2026/>〕をご参照いただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたりまして、公益社団法人日本理科教育振興協会より毎年、多大なるご支援とご協力を賜っておりますことに、会員を代表して深く感謝申し上げます。



全国理科学研究大会

第73回全国中学校理科教育研究会 奈良大会の開催について

第73回全国中学校理科教育研究会 奈良大会
第15回近畿中学校理科教育研究会 奈良大会
令和8年度奈良県中学校理科教育研究会研究発表大会
令和8年8月9日（日）～8月11日（火・祝）



全国中学校理科教育研究会
会長 和田 栄治

公益社団法人日本理科教育振興協会の皆様には、日頃より全中理に多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。今年度、全国中学校理科教育研究会は、奈良県奈良市において、山本剛運営委員長のもと、大会主題「自然の事物・現象にじっくりと深く関わり、科学的に探究する資質・能力を育てる理科教育」を掲げ、全中理奈良大会を上記の日程で行います。

1日目には文部科学省・教科調査官、真井克子様より指導要領改訂等についてご指導をいただきます。2日目には4つのテーマに分かれて分科会を行い、3日目の記念講演は、DMG森精機株式会社・社長、森雅彦様よりDMG森精機のMachining Transformation戦略についてお話をいただきます。

現在、生成AIなどのデジタル技術が飛躍的に進化し、働き方や就業構造に大きな変化が予想されています。学びの在り方については「好き」を育み「得意」を伸ばし、多様な他者と対話や合意を図る取組が求められています。とりわけ理科においては、観察や実験といった直接体験を通じて科学的に探究する活動をなお一層進めていく必要があります。

本大会に多くの皆様が集い、優れた授業実践や新たな知見が広く共有され、それが今後の授業改善に結び付く有意義な場となることを期待しております。

「学びと指導の調和をめざした学習」 全国小学校理科研究協議会研究大会千葉大会の 開催について

第59回全国小学校理科研究協議会研究大会
千葉大会
令和8年11月19日（木）・20日（金）



全国小学校理科研究協議会
会長 林 禎久

全国小学校理科研究協議会は、大会主題を「グローバル社会を生き抜く心豊かな人間を育てる理科教育」のもと、千葉大会の研究主題を「学びと指導の調和を目指して」と設定し、2日間にわたって開催します。最終日には、千葉市の3つの小学校を会場として、第3学年から第6学年の全ての学年で公開授業を実施します。さらに、各会場では、学年別分科会を設けて当日の授業について協議するとともに、各都道府県の先生方が研究授業実践を発表することを通して、研究実践の情報交換も行います。

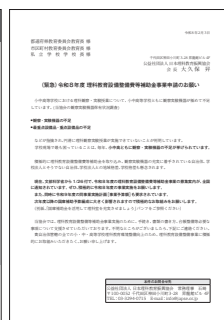
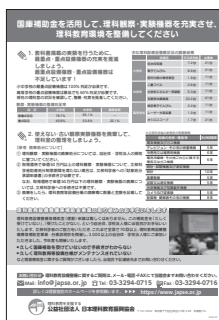
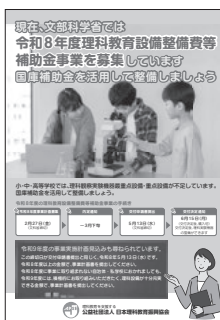
千葉大会では、子供たちの主体的な学びを支えるという視点での授業デザインである、教材の選定、指導の質と量、タイミングなどの果たす役割を明確にすることを授業改善に求め、自然認識を発展させる理科教育・学習と指導の調和を基盤とした研究を進められています。これらの取組を通じ、子供の主体的な学びと指導の適切なバランスについて共に考える良い機会になると考えております。千葉大会での情報共有を通じ、全国の小学校理科の研究者がつながり、各地の授業改善に寄与できることを期待しています。

令和8年度 理科教育設備整備費等補助金進捗状況

1 令和8年度理振事業への対応

文部科学省より令和8年度理振事業の募集案内が1月26日付けで通知されました。

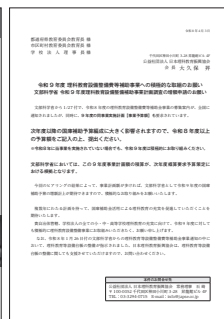
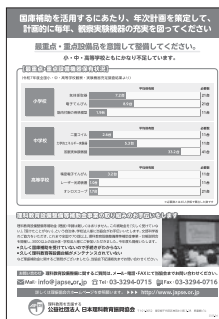
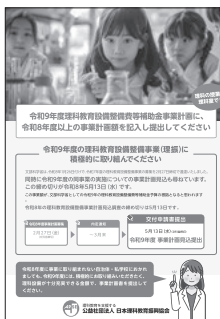
理振協会では、全国都道府県市区町村、学校法人に対して理振事業参画促進のパンフレット及び案内をDMいたしました。



2 令和9年度理振事業への対応

文部科学省は、令和8年度事業募集に合わせて令和9年度の事業計画も、交付申請締め切りまでに提出する様に指示されています。

これは、8月の文部科学省令和9年度概算予算要求において、理科教育設備整備費等補助金予算立案の基礎となる数字となりますので、大変重要な意味を持ちます。できるだけ多くの希望が集まるように、理振協会では全国市町村・私立学校に、令和8年度事業への取り組み促進パンフを4月3日付けで発送いたしました。



3 交付決定

本年度の理科教育設備整備費等補助金の交付決定は、6/16に通知されました。

今回の交付決定額において、当初予算は、ほぼ全額消化されるものと見込みますので、追加募集はないものと思われます。

※当初予算 17.16億円 6/16 令和7年度交付決定額 17.1億円

岡山教育委員会との共同 理科教育設備整備費等補助金事業・台帳作成説明会報告

開催日時 令和8年6月24日(水) 午前10時00分～12時00分
場所 岡山県庁舎 大会議室&WEB配信
隣席者 岡山県教育委員会義務教育課、高校教育課
講師 (公社)日本理科教育振興協会 常務理事 石崎 裕行
聴講者 139名(現地12名 WEB127名)



参加者数

地区	県立高校	特別支援学校	市町村自治体	中学校	小学校
岡山県全県	51	14	23	20	31

令和8年度 復興教育支援事業計画

事業実施以来、15年目となります。本年は石川県能登半島大地震被災地区、東日本大震災地域・第一原発避難地区にて、実施させていただきます。

実施地区・・・石川県：珠洲市、輪島市、七尾市、能登町、穴水町／福島県：双葉町、浪江町、南相馬市

実施時期・・・令和8年9月～12月度

実施授業・・・教科書掲載の観察実験授業を実施

スケジュール・・・5月～6月：実施地区から募集、7月～5月：実施校と授業内容・日時の打ち合わせ、9月～12月：実施

平成23年から実施して、今までに 小学校257校 799時間 16,191名の児童たちと一緒に観察・実験授業をいたしました。

令和8年度 理科教育設備整備費等補助事業・台帳作成説明会 実施報告

実施日	開催地	講師	参加者
6/2 (火)	福岡 アクア博多	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 真井 克子氏	学校法人：7校7名 自治体：3名 計10名
6/4 (木)	大阪 OMMビル	文部科学省初等中等教育局教育課程課視学官 藤枝 秀樹氏	学校法人：13校18名 自治体：15名 計33名
6/10 (水)	東京 連合会館	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 小林 一人氏	学校法人：28校31名 自治体：12名 計43名

説明会は、平成28年から本年までのべ84会場で実施いたしました。

これまで累計で、学校法人 1485校、都道府県市区町村自治体 758自治体、累計参加者 3,247名が受講されました。



6/2 福岡会場 真井克子教科調査官



6/4 大阪会場 藤枝秀樹視学官



6/10 東京会場 小林一人教科調査官

安心安全ドキュメント

令和7年度事業として下記5点をホームページにアップいたしました。ダウンロードしてご利用ください。また、これまで作成した87種を掲載したパンフレットも活用ください。

- ・石灰水の作り方
- ・エタノールの取扱いについて
- ・記録温度計の注意点
- ・光源装置の正しい使い方
- ・端巻可変変圧器を使う際の注意点

<https://www.japse.or.jp/publication/document/>



理科観察実験指導力向上セミナー実施

安全で楽しい理科観察実験を、できるだけたくさん児童生徒に体験してもらいたいと思います。そのためには小学校・中学校の教諭の指導力がとても重要になります。受講された方々には好評をいただいております。今後も継続して実施させていただきます。本年も下記3会場にて実施いたします。

第14回	国立天文台	7月28日(火)
第14回	葛飾区科学教育センター【未来わくわく館】	8月17日(月)
第14回	愛知教育大学(小学校教諭対象)	8月19日(水)
第4回	愛知教育大学(中学校教諭対象)	8月20日(木)

今までの測定を劇的に変える 「リアルタイムグラフ」体験。



最小表示0.01 g



◆水の蒸発を調べる実験

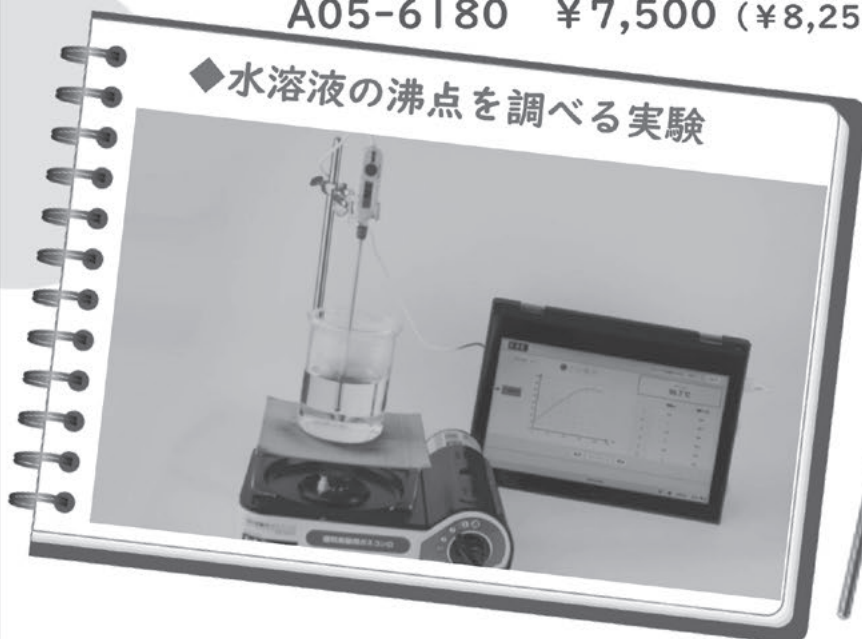


USB質量センサ sugu-M
A05-3830 ￥15,000 (￥16,500)

すぐグラフシリーズ

USB温度センサ sugu-T
A05-6180 ￥7,500 (￥8,250)

◆水溶液の沸点を調べる実験



これ1本で
水温も気温も
測定できる！

NaRiKa
SCIENCE IS JUST THERE

株式会社 **ナリカ** <https://narika.jp/>

□本社 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-10 TEL:03-3833-0741 FAX:03-3836-1725
□仙台営業所 〒981-0932 仙台市青葉区木町 6-14 サン・レオ102 TEL:022-272-8188 FAX:050-3156-7469
□大阪営業所 〒531-0076 大阪市北区大淀中 1-4-16 永田中津ビル5階 TEL:06-6451-3986 FAX:06-6451-3925
□福岡営業所 〒812-0014 福岡市博多区比恵町 2-7 博多東エースビル7階 TEL:092-432-6888 FAX:092-432-7388